

【発行者】
長田会計事務所
大阪市中央区徳井町2-2-9-701
TEL 06-6944-2111
FAX 06-6944-2110
Mail nagata@office-smile.jp
HP <http://office-smile.jp/>

【編集部】
編集長 大江 未咲
部員 遠藤 悦代
小倉 優花
岡 拓海
発行責任者 長田 雅子

【TOPICS】

- 1P: ◇老子「上善の言葉」 ◇お仕事備忘録 ◇2月3月の勉強会のお知らせ
- 2P-3P: ◇台湾視察旅行に行ってきました
- 4P: ◇未来へ続く道 ◇経営学のさわりのさわり
- 5P: ◇インターンシップ生報告会
- 6P: ◇長田会計事務所の〇〇なコト ◇豊の部屋 ◇今月のおやつ ◇編集後記



老子「上善の言葉」

かし
下士は道を開いては、大いにこれを笑う。
笑われれば、以て道と為すに足らず。



つまらない人間は「道」の話を聞くと大笑いする。
笑われないようなものは「道」とする価値がない。

宮下真著「心の疲れがすうっと消える 老子 上善の言葉」より引用

言葉では簡単に表すことのできない「道（真理・自然の原理）」を理解するには、自分の考えや価値観などの軸が備わっていなければ理解することはできません。
すなわち、見えないものを感じ、読み解く力が必要になるのではないのでしょうか。



4月に新入社員を受け入れる事業者は、受け入れる準備を開始する時期です。また、4月から給与改定を行う場合には昇給の準備を検討する時期でもあります。春に向けて早めに準備を開始しておきましょう。

2018年2月 お仕事備忘録

1. 固定資産税の納付（第4期分）
2. 確定申告（書面）の受付開始
3. 国民年金保険料の「2年前納」の手続き
4. 労働保険料等の口座振替納付の申込
5. 4月昇給の場合の資料収集等の準備
6. 新入社員の受入準備
7. 火災予防運動に伴い、消防設備等の点検実施

2月・3月の勉強会のお知らせ

●確定申告の実務②/決算書の読み方
日程：2月1日（木）10：00～12：00
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：2,000円／お1人様

●法人税のしくみ①
日程：3月22日（木）10：00～12：00
場所：長田会計事務所セミナールーム
受講料：2,000円／お1人様

受講を希望される方は、お知らせくださいませ！





台湾へ視察旅行に行ってきました



昨年(2017年)の12月1日(金)～12月3日(日)に台湾へ研修旅行に行ってきました。

今回の研修は所長が所属している経営者団体、大阪府中小企業家同友会の研修に、私たちスタッフも同行させていただき、日本企業の現地法人1社と台湾企業2社の会社を見学させていただきました。

1日目、2日目は研修、3日目は社員旅行という充実した3日間の旅の様子をレポートします！

1日目

関西国際空港より朝10時発の飛行機で旅立ち、台湾の桃園空港には12時半前に到着しました。日本との時差は1時間ほどです。

1日目はFJ CONSUSS CO.LTDの会社見学でした。FJ CONSUSS CO.LTDさんは大阪市住之江区にある株式会社コンサス様の現地法人で、主にステンレス製バルブや付属品の製造をされている会社です。株式会社コンサスの社長である土井靖士様が同友会に所属されているご縁で今回訪問させていただくこととなりました。



空港に到着後すぐにタクシーで桃園駅まで移動し、さらに新幹線で台中駅まで行きました。台中は台湾の中でも工場が多くあるエリアです。

ちなみに新幹線の車両は日本の技術が投入されているため、日本の新幹線とほぼ同じでした。

到着してまず工場内を見せていただきました。私たちは、台湾に行く前に、大阪にある日本法人を見学し、説明していただいていたので、思い出しながらじっくり見ることができました。



見学の後、日本人の駐在員の方から日本との違いや苦労されたことなどのお話を聞かせていただきました。

特に印象深かったのは、“中国人と日本人のアプローチの違い”についてです。日本人は計画段階で想定される問題をつぶして実行するが、中国人は先に物事を進めながら問題を修正していくということでした。全ての日本人、中国人がそうとは限らないと思いますが、



日本人としか一緒に働いたことがない私は、文化や考え方の違う中で共に仕事をしていくのは大変なのだ、強く感じました。台湾の人は親日家の人が多いが、基本的な考え方は違うので、ビジネスの上では苦労することも多いということでした。そんな中で、状況に合わせながらしなやかに働かれているお話を聞いて、“日本人らしさ”のようなものを感じました。



海外の会社を見学する機会なんて自分にはないと思っていたので、日々どのように働かされているのかに触れることができ、とても勉強になりました。

夜は日本人駐在員の方も一緒に懇親会をしました。初めて食べる本場の台湾料理に心躍りましたが、量の多さと品数の多さにただただ驚くばかりでした。普段からよく食べる私でも食べきれないほどの量で、心惜しくも残してしまいました。



また、会社見学でも懇親会でも終始お気遣いいただき、改めておもてなしの大切さについても学ぶことができました。





台湾へ視察旅行に行ってきました



2日目

2日目は、研修参加者のご紹介で、有限公司銘冠農機様を訪問しました。

この会社は日本の中古のトラクターなどの農機具を仕入れ、エンジンやブレーキなどの部品を修理して、台湾や台湾外の農家に販売しています。

見学させていただいた日はお休みだったのですが、私たちのために従業員の方も出勤して、普段の仕事風景を見せていただくことができました。

なぜ日本の中古の製品を輸入し、修理して販売しているのかをお聞きすると、「日本の製品は優れている」「海外からも日本の製品がいいと言われる」など、日本の製品の良さを感じてくださっているのだと日本人として誇らしく思いました。

フルーツや台湾茶なども「回してね」と気楽に渡してくださるような、日本とは違う相手を緊張させない気楽なおもてなしで、国が違うとこんなに変わるのだととても驚きました。言語という大きな壁があるにもかかわらず、その壁を大きく飛び越え、フレンドリーで心温まる時間でした。



「誰もが来たくなる事務所になりたいね」と事務所の皆でよく話します。台湾の会社見学は、思いがけずそのための学びや気づきをたくさん得ることができたと思いました。

番外編

会社見学後、再び新幹線で台北に戻り、2日目夕方から3日目は社員旅行として台北を観光しました。

台北に着くやいなや、地下鉄を乗り継ぎ台北101に向かいました。台北101は台北市を地上382.2メートルの高さから一望できるタワーです。所長と私は高所恐怖症のため、あまり景色を見ることができませんでした。この時ばかりは高所恐怖症である自分が少し憎く思いました。



3日目は早朝から台北市内散策へ。中世記念堂は台湾の初代総統である蒋介石の顕彰施設です。建物は修繕中で見ることができなかつたのですが、衛兵交代式を見ることができました。交代式は厳かで、思わず息をのむ迫力でした。



台湾といえば！のマンゴーのかき氷や刀削麺を食べたり買い物をしたりと台湾を満喫しました。スタッフ大江が本当に幸せそうにマンゴーのかき氷を食べていたのが印象的です。



迪化街は卸問屋街です。これぞインスタ映え！という建物が並び、綺麗な街並みでした。段々街並みや雰囲気が変わっていき、歩いているだけで楽しいひと時を過ごせました。滞在時間が短かったので、存分に楽しむことができず少し残念です。



私は海外研修も社員旅行も初めてで、前日から少し緊張していました。終わってみると同行の皆様、現地の皆様がとても優しく、楽しく、本当に充実した楽しい3日間を過ごすことができました。

今回の海外研修で得た学びや気づきは新しい発見ばかりで、たくさんのことを吸収できたと思います。今後、「誰もが来たくなる事務所」になるために、新しく得たものをスタッフ全員で発信していきたいと思えます。





「はじめに」

今年は「長田会計事務所のこと」をお伝えしていこうと思います。“今までの事務所経営を通じて、私が今考えていることや想い”です。「長田会計事務所は何をしているのか、何をしようとしているのか」をお伝えし、何か皆さんの経営に役立つヒントとなればと思います。

私は12年前、祖父・正臣が昭和45年に設立した長田会計事務所に夢と希望をもって帰ってきました。そのとき既に祖父はいませんでした。祖父が残してくれたたくさんの資料や書籍をもとに事務所経営をスタートさせました。

はじめは何をしたらいいのか、誰に聞いたらいいのかもわかりませんでした。本を読んだりセミナーに参加したりして積極的に知識を増やし、得た知識の一つ一つを実践していきました。また、その当時はお客様と以前に勤めていた会計事務所の仲間以外に知り合いもいませんでした。いろんな場所に出掛け、いろんな方々に出会い、人とのご縁を広げていきました。私は不器用なので、回り道をしたり、無駄なことをしたかもしれませんが、そんな経験を活かすことで、少しずつ自分の想いを実現する事務所経営ができてきました。

今は父から事業を承継しながら、スタッフと共に考え、自分一人ではできないことを実現できる喜びを日々感じています。

次号では「経営理念について」お伝えしたいと思います。



「経営学は『領域科学』であり『実践科学』である」

などと書くとこれだけで読みたくなくなりますね。わかります。

事務所通信ををお読みくださっている方の多くは経営者です。普段から経営に携わっておられる方には当たり前のことと思うのですが、「会社を経営する」ということは大変多くのことが関わってきます。よく言われる「ヒト・モノ・カネ・情報」の経営資源がそれぞれ動き、環境は目まぐるしく変化し、それらが相互に作用しあっているからです。

経営学は「企業」という特定の領域に対し、様々な分野の理論（経済学や社会学、心理学、工学など）を使ってアプローチする『領域科学』です。そして企業がよりよくなるための政策に踏み込む『実践科学』でもあります。それぞれの企業活動そのものは経営学ではありませんが、その活動から企業経営がよりよくなるためのツールや理論を開発し、広く使えるようにしていきます。

私は経営の渦中におらず、外から見させていただいています。その中で、経営者の方々が意識的・無意識的に関わらず行っておられる決断、計画、行動などは、多くが経営学の理論に当てはまったり、応用であったりするのではないかと思います。

今年は『経営学のさわりのさわり』として、経営学のエッセンスを連載します。知識や教養として読んでいただき、「おお、そうだったのか！」という気づき、整理やアイデアのヒントにしていきたいと思います。

次回は「経営とは何をやっているの？～経営システム～」です。





インターンシップ報告会



昨年12月6日に、4年生のインターンシップ生3名によるインターンシップ報告会を行いました。

まず、3名それぞれが約1年半のインターンシップで働いた中で業務、イベントそれぞれ印象深かったことを発表しました。普段行っている業務への本音や、登山やインターン生交流会などなかなか会計事務所では行わないようなイベントの様子など、懐かしく楽しいエピソードが盛りだくさんで非常に楽しかったです。

次に、インターンシップ生によるスタッフの印象の発表、そしてスタッフからインターンシップ生への1年半を通してのフィードバックが行われました。

スタッフそれぞれに対してアクティブ、雰囲気明るくしてくれる、ポジティブ、テキパキしているなど、なるほど、確かにそうだというワードが並び、納得するとともに大変盛り上がりました。そしてスタッフからのインターンシップ生へのフィードバックでは、スタッフが私たちインターンシップ生を非常によく見てくれていることを改めて実感しました。また、スタッフが4年生のインターンシップ生が大きく成長している部分を述べる中で、4年生のインターンシップ生と自分と比較し、自分に足りないものが見つかりました。



最後にインターンシップ生から業務依頼書の改善の提案がありました。私たちインターンシップ生は勤務ごとに業務依頼書に業務内容と1日の感想を記入し、スタッフからフィードバックをもらいます。その業務依頼書に、業務の達成度を5段階で記入してもらうものでした。当たり前になっている書類作成にも意識を向けるところを見習いたいと思いました。



このインターンシップ報告会を通して、半年間のインターンシップを改めて振り返ることができました。長田会計事務所に来る前と今で、自分は何を身につけることができたかを考えてみました。月次や年末調整といった概念すら知らずに会計事務所に飛び込んだ半年前と比べれば、会計や税務の知識は身につけることができたと思います。

では、他に何を学んだのか。インターンシップとは、学ぶために行うものだと思います。4年生のインターンシップ生の発表では、長田会計事務所では会計や税務の知識にとどまらず、社会人の基礎となる様々ことを学ぶことができたそうです。社会人として働くまでにこの会計事務所で多くのことを学び、来年のインターンシップ報告会で私たち3年生が良い発表ができる、つまりこれからの1年間を良いインターンシップにすることができるために、これからも全力で学んでいきたいと思っています。

3年のインターンシップ生
岡拓海がレポートしました！



報告会の後、造幣局に見学に行き、貨幣の歴史や製造を学びました。所長は千両箱を持ち上げて楽しそうでした。

独立行政法人 造幣局博物館
大阪市北区天満1-1-79
Tel.06-6351-8509
9:00~16:45 (無料・要予約)



長田 豊



「嫁さんからのチョコが一番美味しい」

バレンタインデーの歴史は、ローマ帝国の時代にさかのぼるとされる。そして日本では1958年ころから流行し、社会に定着したのは、1970年代後半であった。

「女性が男性に対して、親愛の情を込めてチョコレートを贈与する」という。私の青春時代にはない習慣である。歳に合った時代考察が必要だ。

会計事務所では、以前から女性が多いので、チョコをもらう機会が多い。でも、嫁さんからのチョコが一番美味しく感じる。

バレンタイン=愛しい方だそう。



長田会計事務所の ○○なコト

今月のお題： 「バレンタインの思い出」

来月のお題は、
「我が家のルール」です。

小向 紗妃

(スタッフ)



「苦しかったバレンタイン」

高校時代、バレンタインの日には手作りのチョコを学校へ持っていく決まりがありました。

私の友人の中にはチョコが嫌いな友人がおり、その友人のために、チョコが入っていないお菓子も一緒に作る必要がありました。チョコ以外にもクッキーや、チーズケーキなどを作り、前日の夕方からは死に物狂いでキッチンに立っていた思い出があります。

バレンタインは市販のものがいいと思った3年間でした。



望月 彩愛 (インターンシップ生)



「前夜は自宅がチョコレート工場」

高校・中学と6年間バレンタインは手作りで通しました。

元々凝り性な私は年々作るもののクオリティをあげ高校3年生の時にはブラウニー2種、スノーボールの3種を作りました。そのせいか前夜からキッチンにはチョコレートの香りが充満し、チョコレート工場そのものでした。

因みに毎年30人分ほど作っていましたがその中に1つも「本命」はありませんでした…。



玉川 晃基

(インターンシップ生)



「放課後に…」

私のバレンタインの思い出は放課後「チョコ渡し告白」を受けたことです。

時期は中学2年生の部活終わりです。学校の駐輪場で部活仲間と話していたところに当時同じクラスだった女の子が突然来て、言葉を添えつつチョコを渡してくれました。受け取ったときはビックリしてポカーンとなっていた気がします。

あれから8年経ちますが当時のシーンは思い出せます。いま思うと、「ああ…あれが青春かあ。」というような気持ちです。



豊の部屋



昨年冬の忘年会での一コマです。インターンシップ生の岡君になにやらお話し中です。

今月のおやつ

「ぜんざい」

1月11日に事務所の鏡開きをし、そのお餅でぜんざいをつくりました。

ぜんざいは温かいので冷えた体に染み渡りホッとしました。



編集後記

編集部インターン生の岡です。今号より編集部として新聞作成に携わることになりました。インターン報告会について、はじめて1ページ分の記事を書かせていただき、改めて文章を書くことの難しさを実感しました。伝えたいことがうまく伝えられないもどかしさやうまく伝えられたときの達成感を感じながら、これからよりよい新聞を発行できるように努力していきます。よろしくお祈りします。

